

目指す姿

観光客を含むサイクリスト、自動車運転者、歩行者等が互いに尊重し合い、共存する環境の中、国内外から多くの方々が来訪し、安全で快適に自転車による県内周遊（「ビワイチ」「ビワイチ・プラス」）を楽しんでいるとともに、地域の豊かな自然や文化、食、人とのふれあいを通じて県全体が活性化され、県民自身も自転車で県内周遊を楽しんでいる

本ビジョンで「ビワイチ」の魅力や地域振興等に向けた可能性を描いた「理想とする「ビワイチ」物語」

（県外の人）

- ・「ビワイチ」の受入体制が充実し、繰り返し「ビワイチ」を楽しんでいる。
- ・湖岸では様々な人が快適に「ビワイチ」を楽しんでいる光景が広がっている。
- ・当たりまえのルールとマナーが浸透し、飲食店や宿泊施設などでサイクリスト向けのサービスが充実していることを実感する。
- ・県内の様々な立寄スポットに魅了されるとともに、地元の方との会話も弾み、滋賀の魅力や琵琶湖の素晴らしさを肌で感じる。

（県内の人）

- ・自転車を利用する機会が増え、今では古い町並みや里山を巡るようになった。
- ・トラブルに対するレスキュー体制や公共交通機関との連携が図られ、誰もが安心して楽しめる。
- ・地元で開催されるサイクリングイベントに地元の人が多く参加し、親子連れで自転車を楽しむ人が増えている。
- ・「ビワイチ」「ビワイチ・プラス」を通じて、健康増進につながるとともに、琵琶湖への感謝の気持ちが高まっている。

（ストーリーの中で紹介しているイメージ写真）



繰り返し、ビワイチを楽しむ国内外の人々



サイクリスト向けサービスの充実



自転車散策による地域の魅力発見



サイクリングを楽しむ地元の人々

基本方針

方針1 国内外に向けたサイクリングブランド「ビワイチ」の確立および観光・地域経済の振興につながる仕組みづくり

方針2 サイクリストから自転車初心者まで、安全かつ気軽にサイクリングを楽しめる環境づくりや「ビワイチルール」の意識づけ

方針3 県民自身が自転車で県内を周遊することで「地域の魅力再発見」「環境保全意識の醸成」「健康の増進」等につながる取組の推進

施策の方向

- ・国内外に対する「ビワイチ」による観光誘客
- ・サイクリスト向けサービスの充実、地域資源を活かした商品開発
- ・サイクリングツアーガイドの育成・情報交流
- ・サイクリストの受入体制および休憩拠点の整備促進
- ・サイクリングに関する総合窓口の設置 等

- ・ルール・マナー遵守に向けた取組
- ・自転車走行空間の確保
- ・公共交通機関との連携
- ・トラブル時の相談や対応体制づくり
- ・様々なニーズに対応できるレンタル自転車の充実促進 等

- ・自転車散策による地域の魅力発見と発信
- ・サイクリング体験機会の創出
- ・サイクリストとコミュニケーションが生まれる環境づくり
- ・サイクリングによる健康づくり促進に向けた情報発信
- ・「ビワイチ」や「ビワイチ・プラス」による自然とのふれあい推進 等

県によるビワイチ環境整備

○ 矢羽根型路面表示 自転車走行エリア明示 134.8km

矢羽根型の路面表示を平成30年度までに整備。
自転車走行場所の確保、ドライバーへの注意喚起を促す。



○ 自転車走行空間の確保 走行空間モデル整備 3地域

限られた道路空間において、多くのサイクリストと歩行者や自動車とが安全に道路を共有できるモデル整備に取り組む。



※走行空間モデル整備については、国の自転車活用推進計画（法定計画）に基づき、県の整備計画を見直す予定。

○ 休憩拠点整備 休憩拠点整備 7箇所

ビワイチルート沿いの緑地公園内にサイクリストの交流拠点となる東屋などの休憩施設を整備する。



○ ICTを活用した情報提供 アプリを活用し、道路施設と連動した誘客推進

- ・地図アプリと連動した道案内、情報配信
- ・ビーコンを活用した周辺情報の配信
- ・サイクリングをしている方の記念写真を自動撮影
- ・カウントセンサーによる走行情報の収集



○ 内陸部への誘客

- ・「ビワイチプラス」コースの選定とマップでの情報発信
- ・案内看板設置やアプリでの発信等による立ち寄り先情報発信

